

昭和三十年一月二十二日

戰  
鬪  
詳  
報

24208

船舶工兵第六隊第三中隊



⑤

一 二 三 南田空襲隊第三中隊  
船舶工兵第二十六聯隊第三中隊

一 戰前ニ於ケル彼我形勢ノ概要

敵ハ比島作戰援護ノタメ一月初旬以來有カナル機動部隊ヲ南支那海ニ游セシメ臺灣南西諸島南支那ヲ空襲シ後方基地ノ攻撃及ビ増援ノ遮断ヲ爲シアリ二十三日十三時三十分ニ得タル情報ハ二十一日一五時一五分敵機動部隊三郡臺北基點一四〇度三五〇分ヲニアリテ三四〇度方向ニ進ミアリ

之ハ我ハ奄美守備隊各島嶼間ノ局地輸送ニ任シアリ二十日ヨリ沖永良部與論島ヨリ徳之島ニ飛行場勞務者者ヲ輸送スベク山港平土野港ニ各々二艇出發準備中

リ他ニ四艇大島古仁屋ニアリ(内ニ艇修理中)  
 二十二日 一〇〇五 空襲警報發令 一二五解除ス

ニ戦闘ニ影響ヲ及シタル氣象海象  
 〆氣象

日出	〇七・一七	月出	一三・〇六
日入	一八・〇四	月入	〇一・二三
満潮	〇一・〇〇	干潮	〇七・一〇
	一三・三〇		二〇・三五

ニ海象

風速 三米快晴海上平穩ニシテ航行ニ最適ナリ又敵機ノ行動容易ナリ

三彼我兵力

彼

長良艇隊方面      グラマンカーナス艦載機 七機  
 加藤艇隊方面      グラマン艦載機 四機

我

長良艇隊      大發 二 艇隊長以下 二七  
 加藤艇隊      大發 二 艇隊長以下 二一

ニ裝備

彼

グラマン 六 下      一三機 機関砲 四  
 カリナス S B 二 C 一      重機 一 一三機 機関砲 二

我

長良艇隊

八九式旋回機関銃

一

九九式短小銃

一七

加藤艇隊

八九式旋回機関銃

一

九九式短小銃

二二

四各時期ニ於ケル戦闘経過

ハ出發ヨリ敵機ノ攻撃ヲ受クル迄(附圖第一第三)

①長良艇隊(東海岸井之川沖)

一三三。空襲警戒解除セラルルヤ直ケニ沖永良部島ニ向フ  
ベキ命令ヲ受ケ紅雁位置ヨリ出シ輸送資材ヲ積載同  
時出發ノ和泊丸ニ前後シテ一四〇。頃山港出發井ノ川沖合  
ニテ一四四。彼我不明セ機高度千米徳之島上空ヲ旋  
回シアルヲ又一四五。高度五六〇。米龜津花徳上空ヲ  
艦來スルヲ認メ敵機ナル事ヲ認ム直ケニ井之川海岸ニ  
向ヒ方角ヲ變ズ

一三。出發命令ニ依リ紅雁位置ヨリ出シ一三五頃平土野  
港出發一四三五頃西阿木名西方海面ヨリ航行中北方飛行  
地附近ニ黒煙トシテ見敵ノ攻撃ト判断直ケニ陸岸ニ達著  
スベク方角ヲ變ズ

戦闘経過

①長良艇隊(附圖第三)

一五。五島津方向ヨリニ機艦來銃撃次イテ諸方向ヨリ計七機  
ノ銃撃ヲ受ク同行ノ和泊丸ハ反轉井之川砂濱ニ向フ敵機ハ大  
發ノ左方向ヨリ和泊丸ノ首尾線方向ニ銃撃ス 基準艇施  
回機関銃及ビ小銃ヲ以テ應戦ス 一五一。ニ番艇ハ命中  
彈ノ破片ニ依リ艀部山路常雄一等兵右前膊旨貫銃  
創ヲ受ケ舟艇彈痕ヨリ浸水ス兩艇共ニ全速ヲ以テ海岸

珊瑚礁ニ達著ス和泊丸ハ敵陣ニヨリ發火炎上砂濱ニ達著スルヤ敵機ハ北方ニ去ル時一五一五アリ

(四) 加藤艇隊 (附圖第四)

一五〇。距岸四〇。米敵機四上空ニ飛來習習翼ヲ上下ニ振り旋回爆彈一ヲ投下ス爆彈ハ後方百米ニ落下水煙ヲ上げ次イテ基準艇ニ向ヒ墜テ面ヨリ急降下銃撃ヲ加フヤ艦部積載ノ重油ドロム罐ニ命中發火機部一面火ノ海トナル同時山崎松雄上等兵肩部ニ受傷ス艇隊長加藤少尉ハ直々ニ艇員ノ離艇ヲ命ズ艇長長谷川榮一兵長ハ舵手海田池田義之一等兵ト共ニ旋回機閉銃ヲ以テ應戦ス立石上等兵以下四名跳込ム二番艇ハ基準艇ノ炎上ヲ見小銃ニテ應戦シツツ反響救助ニ赴キシモ引續ク銃撃ノタメ船底彈痕ヨリノ浸水甚シク艇員頗多ス

スルニ至リタルヲ以テ取敢ヘズ達著ヲ決意シ全速陸岸珊瑚礁ニ達著ス

敵機ハ二番艇及ビ漂流者ニ主トシテ銃撃ヲス

基準艇ハ艇隊長指揮ノ下池田一等兵旋回機銃長古川古川小銃ニ依リ應戦ス機銃弾ハ舟艇ノ前後ニ水煙ヲ上げ其中ニ應戦スル状況正ニ鬼神ヲ並カシム

一五五。不幸一彈加藤少尉ノ胸部ヲ同ニ二分古川一等兵ノ頭部ヲ同ニ五分長谷川兵長ノ頭部ヲ貫通然烈アル戦死ヲ遂ゲ舟艇又浸水甚シク池田一等兵追風ヲ利シ水竿ヲ以テ舟ヲ操リツツ一五四。分頃達著ス次イテ池田ハ再三ノ銃撃下ヲ侵シ機銃ヲ揚陸ス間モナク舟艇ハ艦ヨリ沈没ス之ヨリ先渡辺上等兵福井一等兵ハ炎上沈没ニ頻セルヲ以テ相協カシ重傷ノ山崎上等兵ヲ救護海上ヲ約五〇米交互ニ助ケツツ海岸ニ搬送陸上ニ收容ス

二番艇ハ達著後投彈セラルルモ命中セズ岩落ニ避  
ス漂着ノ基準艇ニモ更ニ銃撃ヲ加フニ番艇ハ積載ノ木  
炭ニ引火セシモ直ニ之ヲ消火ス一五、五。敵機ハ南方  
ニ脱去セリ  
二番艇ハ達著前舵手小野一等兵脚部ニ受傷セルモ  
屈セズ操舵ス又居村中島伊澤破片創ラウク  
彈痕數四十ニ達ス

三 戰鬪後

(一) 長良艇隊再度來襲ニ備ヘ艇員海岸洞屈ニ待避  
負傷者ヲ救援ス

(四) 加藤艇隊

二番艇ニ在リシ連絡掛大野伍長ハ銃撃下間斷ヲ判シ  
西附木名村落ニ至リ電話ヲ以テ狀況ヲ報告ス

戰死者 長谷川兵長ノ外 加藤少尉 古川一等兵見當ラザ  
ルヲ以テ部落民ノ應援ヲホメ捜索ス  
加藤少尉二十三日 古川一等兵二十五日 南側海岸ニテ發  
見收容セリ

五 戰鬪後ニ於ケル彼我形勢ノ概要

ノ彼  
重點ヲ航行場ニ向ケタルモノ如ク一六時以降敵影ヲ見ズ  
ノ我  
櫓坐及ビ炎上舟艇ノ收容ニ任ジ又戰死者ノ死体ノ行方ノ  
捜索ヲナス  
六 齟齬 過失 莫ノ他參考トナスベキ事項  
ノ警戒ハ持ニ嚴重ニテ速ヤカニ其ノ徵候ヲ判斷スル  
コト  
ノ彼我飛行機ノ識別能力ノ向上ヲ要ス

炎上ハ艦部積載ノ重油發火ニ起因ス依リテ中甲板ニ  
積ミ艦部ニハ「ドラム罐」「砂利」堪實ニ防護代用ニ  
スルヲ可トス  
又航行ハ晝夜間共ニ勉メテ接岸航路ヲトルヲ可トス  
又諸方向ヨリ飛行機ニ對スル小銃ノ對空射撃ハ  
方向毎ニ區分射撃ヲセシムルヲ要ス  
然ラザレバ諸方向ヨリ來ル飛行機ニ對シ照準セズ亂  
射スルニ墮ル

獨混六四旅司作命第一ノ號  
奄美守備隊命令

一月二十日〇〇〇  
大和城

- 一 飛行場工事現場ハ勞務者ヲ沖永良部島及興論島ヨリ  
淺間ニ輸送ス
- 二 艦船工兵第三中隊長ハ右輸送ニ協カスベシ
- 三 細部ハ相互協定スベシ

奄美守備隊長 高田利貞

船工二六三中作命乙第三九號  
第三中隊命令

一月二十一日〇九〇〇  
山戰鬥指揮所

一 旅團ハ沖永良部島與論島ヨリ發務者  
二 中隊ハ主力(別紙編成表)ヲ以テ二十日山港及平上野港出發前項輸送ニ任セントス  
三 長良少尉ハ加藤艇隊ヲ併セ指揮シ舟艇四ヲ以テ第一項輸送ニ任スベシ  
四 舟艇ハ加藤艇隊及六六二五六四一七號艇トス  
五 五號艇線一ノ分隊施田被肉銃ヲ分隊ヲ行動間配屬ス  
六 各艇ハ隊隊航行規定糧秣燃料三〇〇俵分ヲ携行スベシ  
七 余ハ山戰鬥指揮所ニ在リ

中隊長 原田大尉

戦闘詳報 第三號 附表一

一月二十二日 第三中隊死傷表

備考	合計	第三中隊			部區分		生死不明
		本隊	平上野分遣隊	山港分遣隊	將校	兵	
輕傷者平上野分遣隊四	二	八	一	二	將校	兵	
	三	六	二	四	將校	兵	
	三	六	二	四	將校	兵	
	一	一	一		將校	兵	
	二		二		將校	兵	
					將校	兵	
					將校	兵	
					將校	兵	
		六	一	五	將校	兵	
					將校	兵	



戰間詳報第三號附表二

一月二十二日 第三中隊兵器消耗表 昭和三年一月二十二日調

備考	合計	分遣隊	古仁屋	分遣隊	平土野	本部	部區		種類
							隊	分	
	134				72	02	包	東	彈藥
	238				180	58	包	東	彈藥
	4				4		包	東	彈藥
	7				7		包	東	彈藥
	7				7		包	東	彈藥
	7				7		包	東	彈藥
	8				8		包	東	彈藥
	8				8		包	東	彈藥
	8				8		包	東	彈藥
	8				8		包	東	彈藥
	1				1		包	東	彈藥
	210				210		包	東	彈藥
	19				19		包	東	彈藥
	4				4		包	東	彈藥
	1				1		包	東	彈藥
	5				5		包	東	彈藥
	5				5		包	東	彈藥
	1				1		包	東	彈藥
	1				100		包	東	彈藥
	1				100		包	東	彈藥
	2				2		包	東	彈藥
	2				2		包	東	彈藥
	6				6		包	東	彈藥
	1				1		包	東	彈藥

戰間詳報第三號附表三

百言 第三中隊燃料消耗表 昭和三年一月二十二日調

備考	合計	分遣隊	古仁屋	分遣隊	平土野	本部	部區		種類
							隊	分	
							油	燈	揮
	2400			1200	1200		油	機	動
							ル	コ	刀
	300			1500	1500		油	ル	ピ
							油	シ	マ
							油	凍	不
							油	燈	揮
	4320			4320			油	機	動
							ル	コ	刀
	16000			16000			油	ル	ピ
							油	シ	マ
							油	凍	不

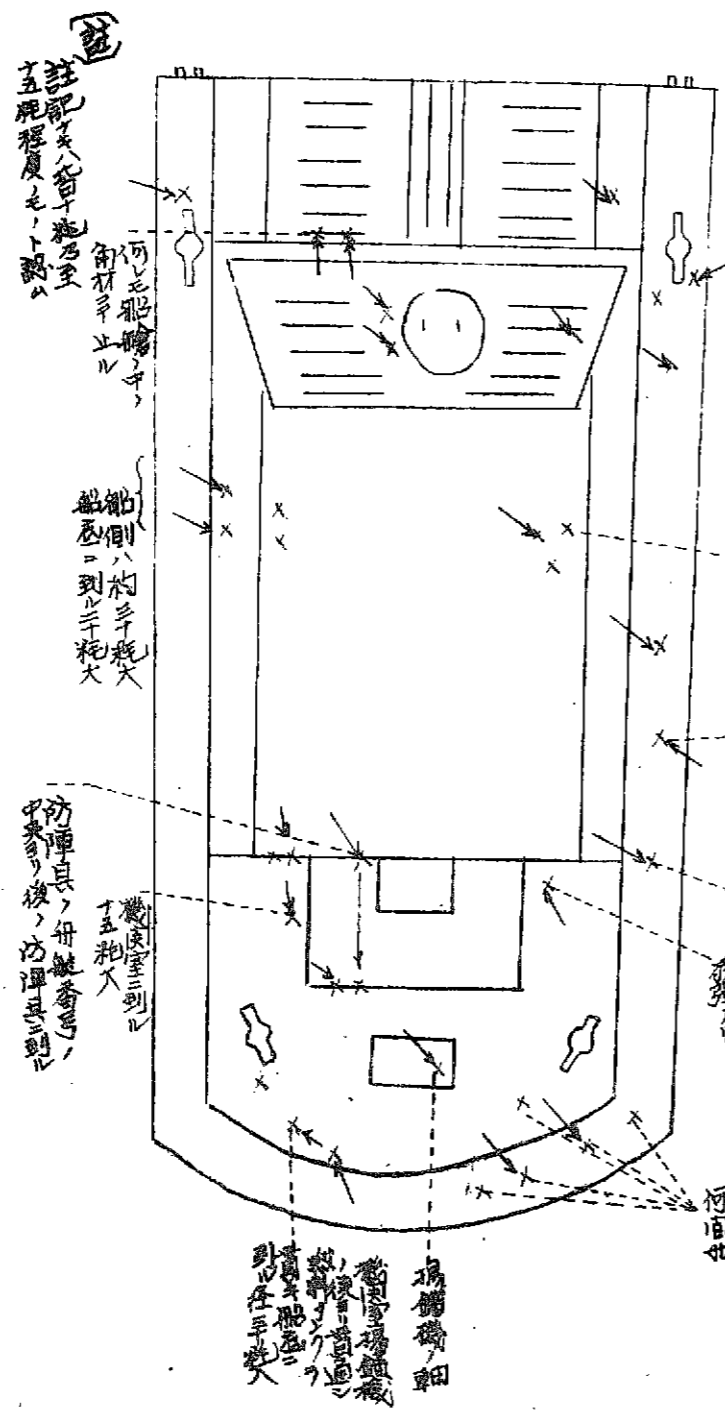


戰國詳報第二號 附表六

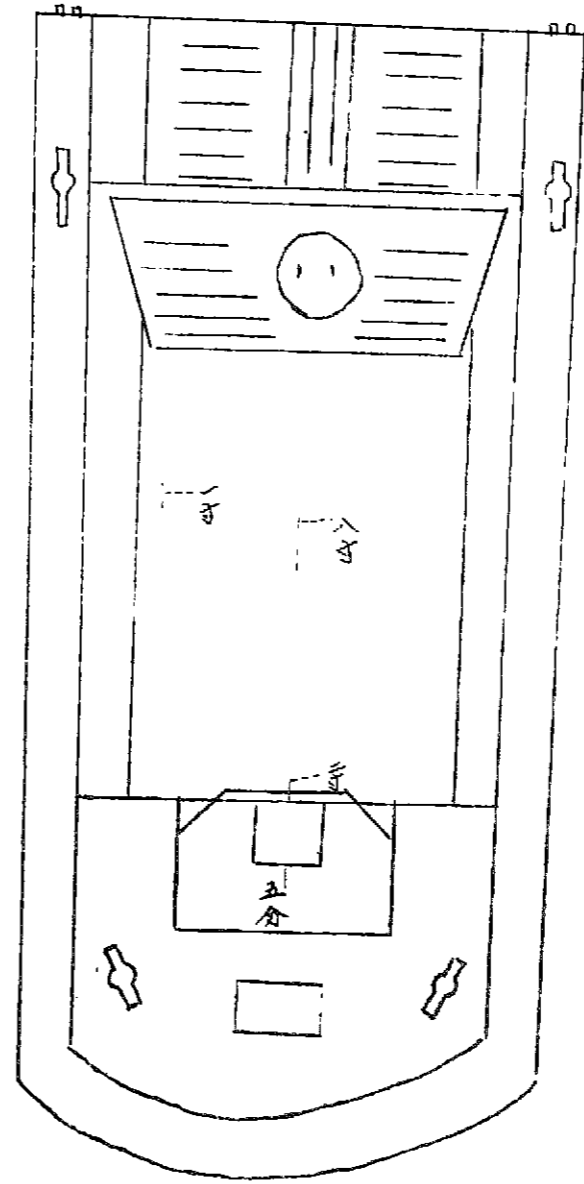
自二十日第三中隊被服損耗表昭和三年自二十日調

備考	合計	吉屋分遣隊	平野分遣隊	本部	第區		種類
					被	損	
	13		13		幕台	天飯	
	12		12		帽	鐵	
	11		11		甲	被	
	10		16		巾	毛	
	38		38		卷	腹	
	6		6		綢	表	
	8		8		用	暗	
	12		12		栗	識	
	5		5		刀	小	
	11		11		章	襟	
	17		17		布	襟	
	18		18		下	靴	
	42		42		袋	手	
	13		13		綢	命	
	10		10				

第七三二九號艇被害要圖

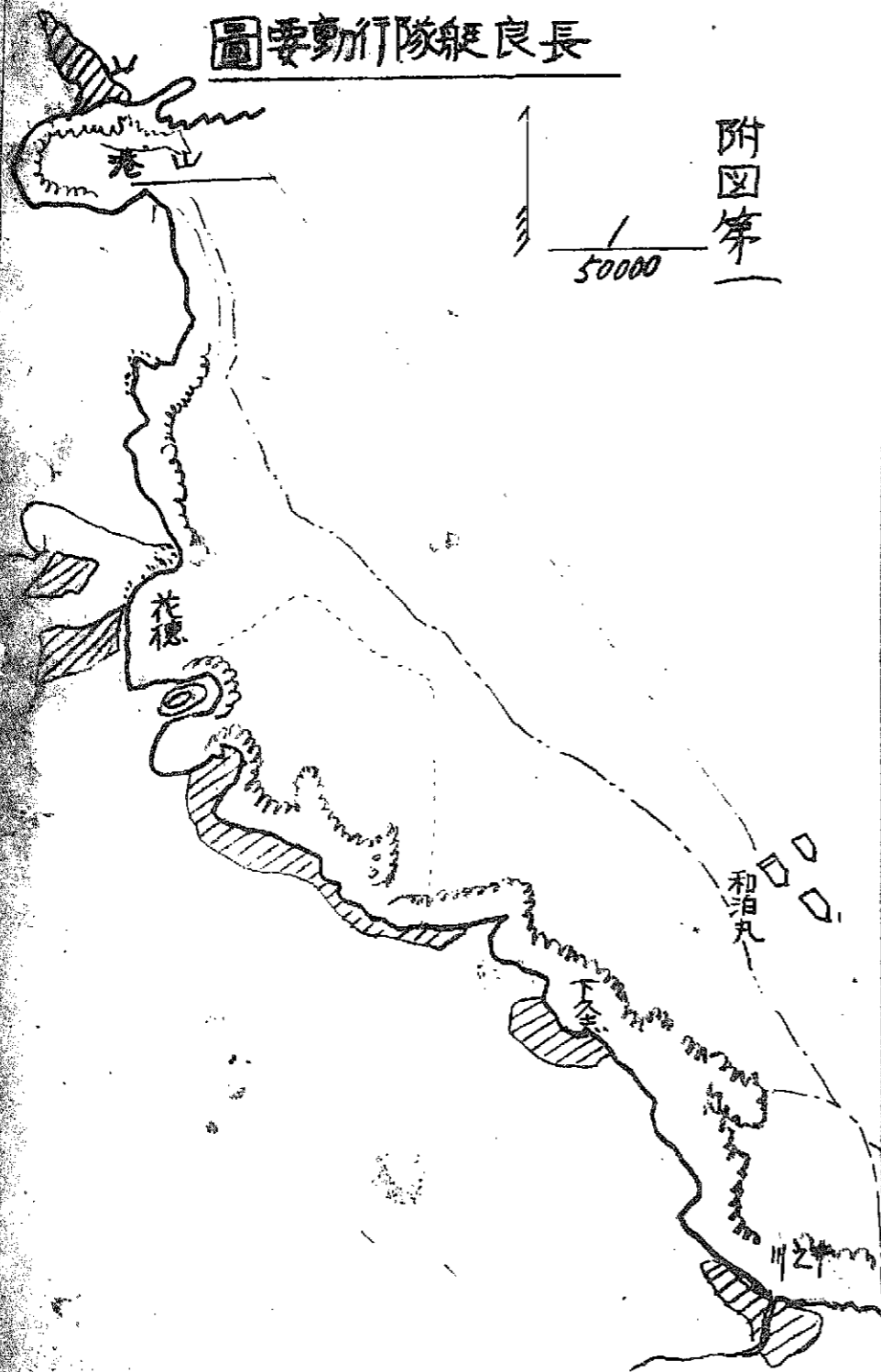


炎上焼却 補給数八損失量、全部 被甲一六四 毀損三三度、多量用不記也



第六六二五艇被害要圖

圖要勤行隊艇良長



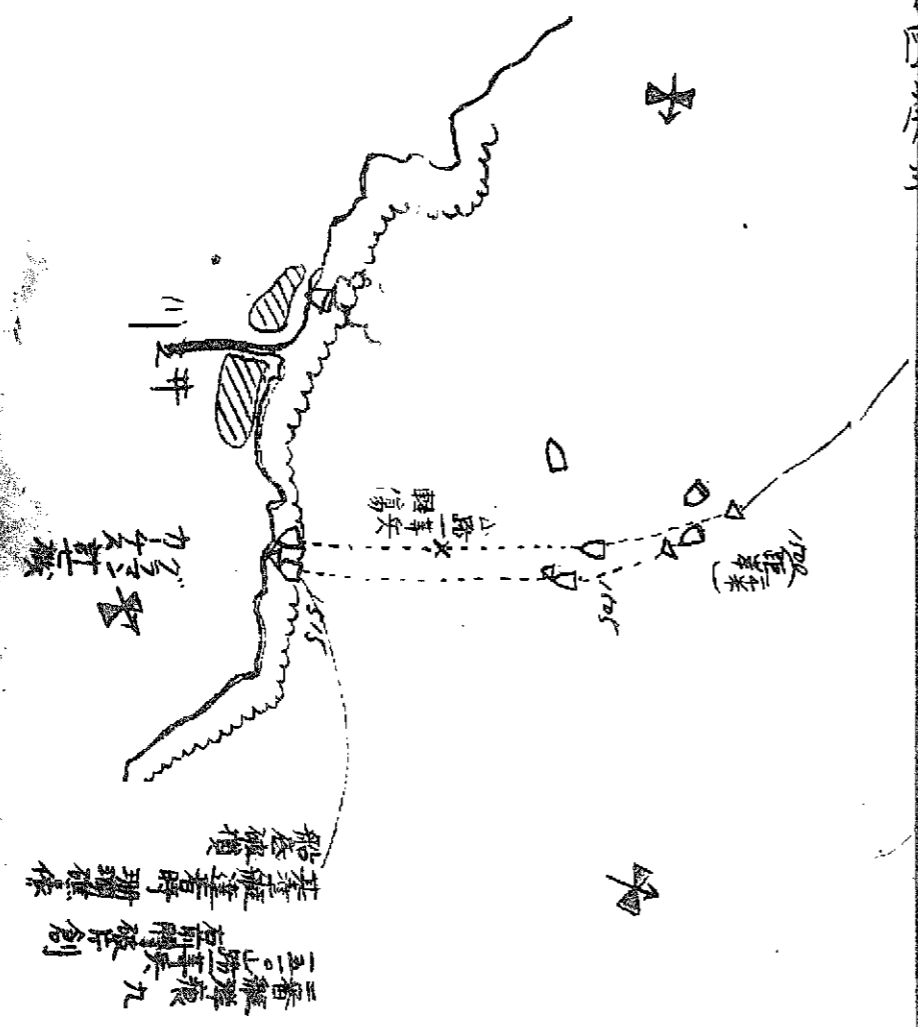
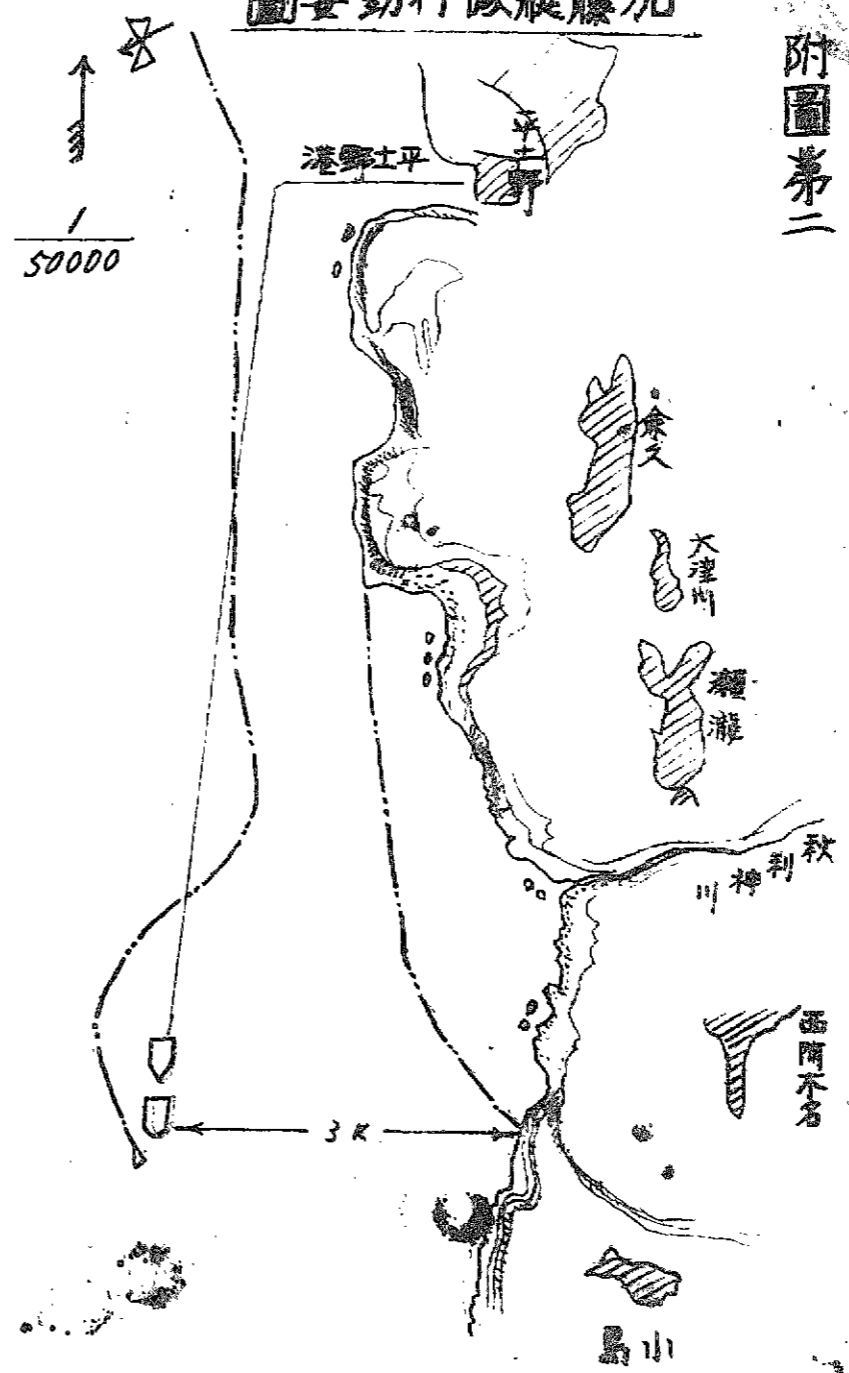
附圖第一

合計	古三屋分遣隊	平土野分遣隊	本部	部區		種類
				隊	分	
8		8		ト-ソマレ		衛生材料
11		11		包帯	繃	
8		8		液水	淨	
9		9		包毒	除	
60000		60000		米	精	糧
60720		60720		シ	乾	
8000		8000		增	味粉	
8000		8000		油	醬粉	
3000		3000		塩	食	料
21600		21600		料	燕糖	

戰國詳報 第二號 附表七  
 百五百第三等隊衛生材料並糧秣損耗表昭和三年三月三十日調

加藤艇隊行動要圖

附圖第二



三番艇隊  
九  
二五山崎  
右前破片創  
基盤艇達者時珊礁体  
船底破損

1/10000

附圖第四







武功拔群ナル者

戦死者

陸軍少尉

加藤 米造

右者責任觀念旺盛 常ニ黙々トシテ任務ヲ遂行ス  
特ニ二月二十一日沖永良部島 輿論島ヨリ輸送ヲ命ゼラル  
ルヤ敵機ノ攻撃ヲ受クル公算大ナル情況ニモ拘ラズ 敢然任務  
ニ服シ出發ス 間モナク敵機ノ攻撃ヲ受ルマ機宜ニ適スル處  
置ヲ講ジ 銃撃ニヨリ基幹艇炎上スルモ豪モ動ズルコトナク  
艇員ノ退去ヲ命ジ悠々機関銃ヲ指揮ス 残員總テ  
艇隊長ノ此ノ指揮振リニ奮起 炎上シツモ果敢ニ應戦ス  
敵機ノ銃撃益々熾烈ニ瞬飛ビ来ル敵彈ハ少尉ノ胸部ヲ貫  
通 艇上紅ニ染メツ壯烈ナル戦死ヲ遂グ此ノ奮戦正ニ船舶工  
兵ノ精華如寶ニ舟艇墓場ノ精神ヲ具現セルモノナリ

其ノ武功蓋ニ顯著ナリ

昭和二十年一月二十二日

武功拔群ナル者

戦死者

陸軍兵長 長谷川 榮一

右者終始熱心積極任務ニ邁進 艦長ノ本分ヲ全クセリ  
特ニ二月二十二日、戦鬪ニ於テハ基幹艦ヲ長トシテ参加 艦隊  
長ノ命ヲ奉ジ 果敢ニ奮戦ス 艦隊長退去ヲ命ズル  
モ機銃ヲ指揮シ 應戦ス 敵機之ガタメ攻撃ヲ躊躇セルモ  
寡兵ト見ルヤ再び攻撃シ来ル 猛烈ナル銃撃ヲ遂ニ頭部ヲ  
貫通 壯烈に戦上ヲ紅ニ染メツ 斃ル 正ニ舟艦墓場ノ精  
神ヲ具現セルモノト云フベク 船舶工兵ノ精華ナリ 其ノ武功顯  
著ナルモノト認ム

昭和二十年一月二十二日

武功拔群ナル者

戦死者

陸軍一等兵

古川

日成

右者平素ヨリ黙々熱心積極的ニ服務シ其ノ本分ヲ完フセリ 特ニ二月二十二日ノ戦闘ニ於テハ基準艦機関手トシテ参加 舟艇火炎上スルヤ機関室ノ消火ニ任ジ火傷スルモ屈モ沈著ニ處置ス 退去ヲ命ゼラルルモ艙部ニ至リ小銃ヲ以テ應戦奮闘ス敵ニ熾烈ナル攻勢ヲ加ヘタルモ遂ニ敵彈ニ斃ル正ニ舟艇墓場ノ精神ヲ具現シタルモノト言フベク船舶工兵ノ精華ナリ 其ノ武功顯著ナルモノト認ム

昭和二十年一月二十二日

武功拔群ナル者

生存者

陸軍伍長

大野一郎

右者平素ヨリ熱心眞面目ニ服務シ艦長及ビ分隊長トシテ優秀ナリ 特ニ二月二十二日戦闘ニ於テ連絡掛トシテ二番艦ニ乗艦攻撃ヲ受クルヤニ番艦ヲ指揮シ果敢ニ應戦機宜ニ適スル處置ヲ講ジ達著舟艇ヲ保全セリ而モ熾烈ナル銃撃下間断ヲ利用シ狀況ヲ報告スベク悪路ヲ克服シ急報ス

其ノ行動勇猛果敢沈着豪膽連絡掛ノ任務ヲ完ウシタルモノニシテ衆ノ模範タリ

昭和二十年一月二十二日

武功拔群ナル者

生存者

陸軍一等兵 池田義之

右者平素ヨリ黙々熱心ニ服務 舟艇操縦ニ當リテハ優ホカナリ  
特二月二十日、戦鬪ニ於テハ敵弾下舟艇ヲ操縦 火炎上退去命令  
下ルモ退去セズ 機銃射撃トシテ奮戦 敵ニ痛撃ヲ與フ 艇隊長  
艇長戦死セルモ豪々動ズルコトナリ沈着ニ行動員傷者ヲ救護シ又追風  
ヲ利シ舟艇ヲ水竿ヲ以テ操リ違著セシム 且機銃ヲ陸岸ニ搬送保全ス  
其ノ行動勇猛沈着如何ナル情況ニ於テモ自己ノ任務ヲ完ウスル熱烈  
ナル責任觀ハ衆ノ模範ニシテ船舶工兵ノ精華ナリ  
其ノ武功顯著ナルモト認ム

昭和二十年一月二十日

武功拔群ナル者

陸軍上等兵 渡邊光男

生存者

陸軍一等兵 福井 稔

右者平素ヨリ黙々任務ヲ遂行シ其ノ本分ヲ完ス  
特二月二十日戦鬪ニ於テハ炎上後モ沈着ニ行動シ山崎上等兵  
重傷ヲ負フマ之ヲ救護シ火焰ノタメ身動キカナハヌ山崎ヲ助ケ  
熾烈ナル銃撃下克ク協同シテ水中ヲ海岸ニ搬送全キヲ圖レリ  
其ノ行動正ニ勇猛果敢戦友精神ヲ發揮セシモノトイフベク正ニ  
衆ノ範タリ

昭和二十年一月二十日

武功拔群ナル者

生存者

陸軍一等兵

小野正義

右者平素ヨリ黙々實行 終始熱心眞面目ニ服務シ良好  
ナリ 特ニ二月二十日ノ戰鬪ニ於テハ二番艇船手トシテ参加  
熾烈ナル銃撃下沈著 艇長ノ指揮ニ從ヒ脚部ニ負傷  
スルモ豪毛動ズル事ナク 操縦シ其ノ任ヲ全フス  
其ノ行動勇猛果敢 沈著ノ責任觀念旺盛ニシテ衆ノ  
範タリ

昭和二十年一月二十日

一三三 戦斗詳報

昭和二十年一月二十日  
戦斗詳報 大野隊

(徳島)